

神奈川県議会 令和6年本会議 第1回定例会 環境農政常任委員会

令和6年3月18日

意見発表

◆おだ幸子委員

私は、公明党神奈川県議団を代表し、当委員会に付託された諸議案等に対して意見、要望を申し上げます。

一つ目は、栽培漁業についてです。

気候変動などの影響を受け、今まで捕っていた魚が急に捕れなくなってしまうなど、大変厳しい状況にある漁業関係者がおられます。漁業関係者を支えるためにも、栽培漁業の推進は非常に重要と考えます。今回の栽培漁業施設の整備は、環境変化に対応できる汎用性の高いものであると伺いました。変化の激しい環境の中で、持続可能な漁業のために、引き続き栽培漁業の推進をお願いします。

二つ目は、宅配便の再配達防止に向けた取組についてです。

物流の2024年問題は目前に迫っています。物流が経済の血流だとするならば、血流が止まることで、様々な分野が機能不全を起こしてしまう可能性があります。今、物流業界の皆様は、危機感と強い意志を持って、物流を止めないために必死の努力をしておられます。県におかれましては、この機を逃さず、環境の面からも積極的に利用者である県民に訴え、社会課題の解消に努めてください。

三つ目は、中小企業の脱炭素化の推進についてです。

今年度、当常任委員会において、繰り返し県の支援の必要性、特に中小企業に寄り添った伴走型支援をアウトリーチで行うことの重要性を提言させていただきました。このたび、令和6年度当初予算案において、中小企業脱炭素支援パッケージという包括的な支援策を示していただき、具体的な支援方法として広くアウトリーチ型支援を行うことが盛り込まれ、人員も増やされることに大変期待をしています。脱炭素化の取組を一つのきっかけとして、地域経済の活性化や地域課題の解決につながるよう、県、KIP、商工会議所、商工会、市町村、金融機関などの連携を強化してください。

四つ目は、環境農政局の情報発信についてです。

当委員会での質疑をきっかけとして、県全体の情報発信の課題に気づくことができました。また、その後、環境農政局の関連するホームページについては、速やかに問題の解消と再発防止対策を取っていただき、ありがとうございました。今後、県民に届く、伝わる広報という観点から、SNSを利用した情報発信の必要性は高まっていくと考えます。改定される神奈川県広報戦略においても、SNS等を使った広報クオリティーの底上げや運用などについて、外部スキルの積極活用なども取り上げられていると伺いました。これまでの情報発信の概念は変わってきています。外部スキルも大いに活用して、伝わる広報を実現してください。

最後に、花卉の振興についてです。

花卉栽培は品目にもよりますが、比較的小規模の土地で始められ、施設栽培

がメインとなる場合は、天候や気温の影響を受けにくく、安定した生産量が見込めます。大規模な圃場や高額な施設導入費の確保が難しい新規就農者にとっては始めやすい作物といえ、小規模から収益化を目指せるビジネスモデルであり、神奈川県のような都市型農業に適したものと考えます。2027 年の国際園芸博覧会が開催されることから、県内外の花卉の需要拡大を図り、花卉産業を大きく育てるチャンスを迎えていると考えます。このチャンスを生かして、花卉の持つ効用や活用方法を県民に広く周知するとともに、農水省の花いっぱいプロジェクトなども活用して、生産、消費の両面から花卉業界を支援してください。そして、神奈川県の花卉農業の活性化と県民の生活環境の向上を目指していただくことを要望いたします。

以上、意見、要望を申し上げ、当委員会に付託された諸議案等に賛成いたします。